

奄美語徳之島伊仙町方言のモノローグ談話資料*
—「ハマウリとミーバマクマシと天照大神」の話—

加藤幹治

(東京外国語大学大学院博士後期課程/日本学術振興会特別研究員)

A Monologue Narrative Text of the Isen-Tokunoshima Dialect of Amami:
A Tale of *Hamauri*, *Miibamakumashi*, and *Amaterasuomikami*

KATO, Kanji

Graduate School, Tokyo University of Foreign Studies / JSPS

This paper provides a monologue narrative text of Isen-Tokunoshima dialect of Amami language spoken by a male speaker in his 70's. Phonemic transcriptions, Japanese Kana transcriptions, morphological analyses, and glosses are provided. The content is about the origin of *Hamauri* and *Miibamakumashi*, which are traditional annual events of Tokunoshima. Also, an adventure tale of *Amaterasuomikami*, who is a divinity of Japanese mythology, is included.

キーワード: 琉球語, 奄美語, 徳之島方言, 談話資料, 民話

Keywords: Ryukyuan languages, Amami language, Tokunoshima dialect, monologue, folklore

1. はじめに
2. テキスト

1. はじめに

1.1. 本稿について

本稿では北琉球奄美語徳之島伊仙町方言のモノローグ談話資料および資料への言語学的分析(インターリニアグロス)を提示する。

§1のこれ以降の部分では、談話資料の概要(§1.2)、伊仙方言の概要(§1.3)、表記法(§1.4)について述べる。§2では、音韻表記テキスト(§2.1)、カナ転写テキスト(§2.2)、日本語訳(§2.3)、インターリニアグロス(§2.4)を提示する。

* 有益なコメントをくださった匿名の査読者にお礼を申し上げます。また、徳之島方言を教えてくださいました徳之島の方々に感謝を申し上げます。ただし、本稿での誤りは全て筆者の責任である。本研究は国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本の危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」及びJSPS特別研究員奨励費JP19J20370の助成を受けた。



1.2. 談話資料の概要

本稿で提示する資料は、伊藤勝美氏（70代男性、徳之島伊仙町東面縄（東浜）出身）による民話モノログである。聞き取り調査は2017年9月に徳之島伊仙町の伊藤氏宅で行った。録音の総再生時間は7分24秒である。モノログの録音後、筆者と伊藤氏が録音を一緒に聴きながら、文脈の補足や筆者が聞き取れなかった形態素についての補足を伊藤氏にご教示頂いた。その上でなお同定できないまま残った形態素は資料中で???と示した¹。

モノログは以下のような内容である。

昔、悪者を退治するために天照大神が徳之島へやってきた。悪者退治が終わると鹿児島へ熊襲を討伐しに行こうとしたが、天候が良くないので徳之島に停泊した。浜に停泊する間、天照大神は島の赤ん坊を浜で遊ばせた。これがハマウリとミーバマクマシの起源である。

天気がよくなると、天照大神は熊襲を討伐しに鹿児島へ向かった。一時は熊襲の兵に対して劣勢だったが、夕日を受けて光る鳩のおかげで敵の目が眩み、熊襲を討伐できた。その夜の停泊地を決めあぐねていたところ、天照大神が「そこに泊まろう」と現在の鹿児島県指宿に当たる場所を指で差した。その故事が「指宿」という地名の由来である。

ハマウリ（浜下り：*hama + ur-i*: 浜 + 降りる-INF）とは沖縄や奄美で行われている年中行事で、節句またはお盆に浜で小屋のようなものを立てて飲み食いし、海の向こうにいる先祖の霊を拝むというものである。徳之島では旧暦七月のお盆の次の週に行われる。現在では集落ごとに行事として行っている場合もあれば、集落での行事ではなく各家庭でそれぞれ行っている場合もある。現在でも集落を上げて大きな行事として行っているものでは、徳之島町井之川集落のものが有名である²。ミーバマクマシ（新浜踏ませ：*mii + hama kum-as-i*: 新しい + 浜 踏む-CAUS-INF）とは、ハマウリの際にその年に生まれた赤ん坊を抱いて波打ち際で海に脚を浸からせたり砂浜を踏ませたりする行事である。ミーバマクマシをすることによって子供が健康に育つという。

1.3. 奄美語徳之島伊仙方言の概要

本節では、本稿で提示する資料を理解するために必要な範囲で伊仙方言の概要を述べる。

1.3.1. 地理と系統

徳之島は、東京から南西約1,300 km、奄美大島から南西約25 kmに位置する縦長の島であり、海岸延長は89.2 kmである。面積は248.02 km²、南北約25 km、東西約12 kmに渡る。主な産業は農業（畜産、サトウキビやジャガイモの栽培など）で、人口は23,947人である³。

¹ 録音と書き起こしにご協力くださった伊藤勝美氏にこの場をお借りして改めてお礼を申し上げる。なお、本文中に誤りが合った場合、それは全て筆者の責任である。

² 徳之島町ウェブサイト（2016年8月26日の記事）「夜を徹してにぎわう～井之川浜下り・夏目踊り～」 <https://www.tokunoshima-town.org/chose/koho/photoneWS/160820inokawa.html>（最終閲覧2021年6月20日）。

³ 面積、人口、海岸延長の情報は鹿児島県ウェブサイト「徳之島の概要」 http://www.pref.kagoshima.jp/ac07/pr/shima/gaiyo/tokunoshima/tokunoshima_top.html（最終閲覧日：2021年6月21日）に基づく。

伊仙町は、徳之島の南部に位置し、中でも本稿の情報提供者である伊藤氏の出生地・居住地である東面縄は伊仙町の東南部に位置する。面積は 62.7 km²、人口は 6362 人、世帯数は 2885 戸である⁴。図 1 に伊仙町内の集落の位置を示す。

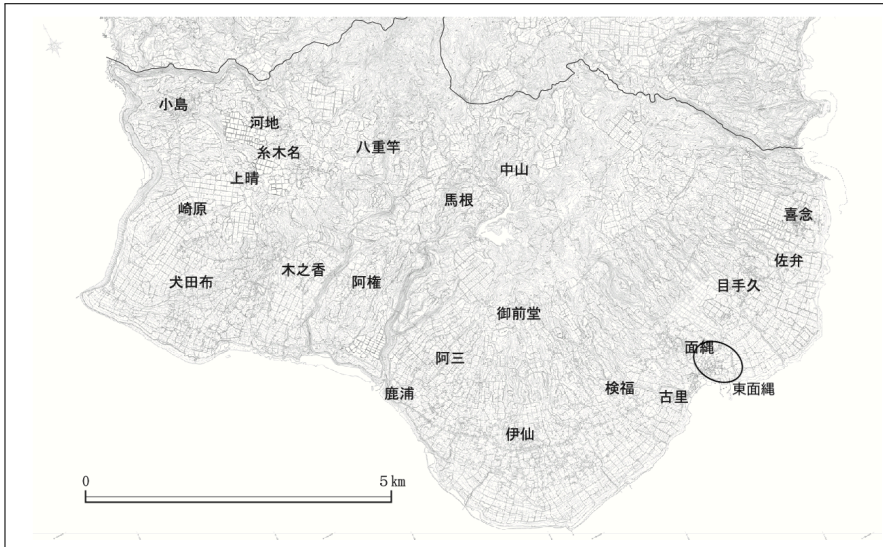


図 1 伊仙町の集落の位置（伊仙町地域文化遺産総合活性化実行委員会 2015: 13 図 16 「集落の位置」を筆者が加工）

伊東氏の居住する行政区東面縄は大字面縄に属し、図 1 中で丸く囲われている地域である。伊仙方言では *agaribaa* と呼ばれるが、それに漢字をあてて訓読みし「東浜ヒガシハマ」とも呼ばれる（津波 2015: 43）。

徳之島方言は言語系統的に日琉語族・琉球語派・北琉球語群・奄美語に属する（中本 1984, 上村 1997, Pellard 2015）。管見の限り、奄美語内部での他方言との系統的関係に関しては定説がない。徳之島方言の地域的変種群の中での伊仙方言の類型論的位置づけに言及した研究には、北西・東・南の 3 群のうち南群に属するとするもの（崎村 1983）と、北・南の 2 群のうち南群に属するとするもの（平山 1966）がある。ただし、比較言語学的検討に基づいて徳之島方言の地域的変種群の中での言語系統的位置づけに言及した研究は管見の限り存在しない。

1.3.2. 音韻論

伊仙方言は以下の表に示すような音素を持つ。母音を表 1 に、半母音を表 2 に、子音を表 3 に示す。

⁴ 面積、人口、世帯数は伊仙町ウェブサイト（2020 年 3 月 23 日の記事）「町政情報」<https://www.town.isen.kagoshima.jp/mirai/chosejoho/machinogaiyo/chosejoho.html>（最終閲覧日：2021 年 6 月 21 日）に基づく。

表1 母音の目録

前舌	中舌	奥舌	
i	i	u	狭
e		o	半広
ε	a		広

母音は必ず1拍を担う。長母音および母音連続は2つの音素の連続として分析する(e.g. [ta:]は /tā/ではなく /taa/)。したがって、長母音および母音の連続はどちらも2拍を担う。/ε/は奄美語において連母音が変化して出現した比較的新しい音素だが(平山1966: 51)、語彙における出現頻度が低く、また、長母音として出現する事が多い(e.g. mεε「前」)。祖語の*eは /i/ または /i/ へ、*oは /u/ へ合流したため固有語には /e, o/ があまり現れないが、合流が起きた後に再度母音連続等から発達した /e, o/ も存在する⁵。筆者のフィールド調査によると比較的若い話者(40代など)では /i/ が /i/ または /e/ へ、/ε/ が /e/ へ合流しつつある。これが本土地方方言からの語彙の借用による /e, o/ の増加と組み合わせ、共通語と同じ /a, i, u, e, o/ の5母音体系へ変化しつつある。

表2 半母音の目録

j, j[?], w, w[?]

半母音は母音と異なり拍を担わない。音節の頭に立つ場合(e.g. /wa/, /ja/)と、音節頭子音と母音の間に立ち拗音拍を形成する場合がある(e.g. /kwa/, /kja/)。声門化半母音は語頭音節の音節頭にしか現れない。したがって、拗音拍も形成しない。

表3 子音の目録

	両唇	歯茎	軟口蓋	(声門)
閉鎖音	p b	t d t [?]	k g k [?]	
摩擦音		s z		h
破擦音		c		
鼻音	m m [?]	n n [?]		
流音		r		

声門化子音(C[?])は声門化半母音と同様に語頭にしか立たない。出現位置が限られる理由は、上村(1992: 16-18)によると、琉球祖語からの改新で、語頭においてのみ声門化が起きたためである(e.g. k[?]umu「雲」<*kumo)。)。/p/は出現する環境が限られており、借用語(e.g. tenpura「揚げ物」)または、/h/から始まる語が複合語の後部要素になった時の音交替(e.g. utji「打つ」+ hugasi「穴を開ける」> uppugasi「強い動作で穴を開ける」)のみに現れる。これは、日琉祖語の*pが語頭では[h]に変

⁵ §1.4でも再度述べる。

化し語中では消滅したため(e.g. 「南」*hai* < **pae*, 「大きい」*uu* < **opo*)、複合語ではその痕跡が残っているものと考えられる。*/t/*は、多くの日琉諸語と同様に、固有語では語中にしか出現しない。

伊仙方言の音節構造テンプレートは(C₁)(G)V₁(V₂)(C₂)である。C₁には、語頭において全ての子音が、語中において声門化子音(C^ʔ)以外の全ての子音が立つ。Gには半母音 */j/*, */jʔ/*, */w/*, */wʔ/*が立つ。V₁には全ての母音が立つ。C₂には語中では */p/*, */t/*, */k/*, */s/*, */c/*, */n/*が立ち、語末では */n/*のみが立つ。C₂に */n/*以外の子音が立つ場合、次の音節のC₁と同一の音素でなければならない。従って、音節末子音に立つのはいわゆる促音と撥音のみである。V₂に母音が立つ場合は常に母音連続である。可能な母音連続の一覧は以下の通りである(ただし、形態素境界を挟まないもの)：*aa*, *ai*, *au*, *ao*, *ii*, *ui*, *uu*, *ui*, *ee*, *oi*, *oo*, *ii*, *εε*。

1.3.3. 語順と格

伊仙方言の基本的な語順はS(O)Vである。Vが節の最後に来るという原則が破られることは少ないが、その他の要素の順番は比較的自由である。例えば、例文(28)はAdv S Adv Vという語順である。しかし、談話中では他動詞文であってもS、O、V全てが揃うことは少なく、本稿で提示する例文の中でも主格主語と目的語と動詞が揃っているのは(68)の一例しかない。

名詞の格は基本的に後置詞(格助詞)によって標示される。主要項の格配列はいわゆる有標主格型であって、他動詞文と自動詞文の主語が主格で標示される。例えば、例文(1)では、自動詞 *wutan* 「いた」の主語である *samurai* が主格の =*ga* で標示されている。また、目的語は無標示である。例えば、例文(32)では、他動詞 *natjan* 「作った」の目的語である *kwa* は無標示である。その他に、有生性の高い名詞(一人称代名詞など)が無標示で現れて主題や属格として働く場合があるが、本稿で提示する資料中には確認できない。

目的語や有生性の高い主題名詞以外に名詞的な要素が無標示で出現する場合があり、それらは副詞であると分析する⁶。例えば例文(1)の *mukasi* は目的語でも有生性の高い名詞でもないが無標示なので、副詞として扱う。

1.3.4. 用言(動詞と形容詞)の形態論

伊仙方言では、用言が接尾辞付加によって屈折する。PC語根(property concept)から派生する語幹は動詞と同じ屈折・派生接尾辞を取るが、PC語根から動詞語幹を形成するためには、語根に動詞化接辞を接続する必要がある。

伊仙方言の用言の大きな特徴は、一つの屈折形式が複数の統語的機能を果たしうる点である。その特徴を示すため表4に動詞・形容詞の屈折形式の一部とその機能をまとめる。

⁶ 伊仙方言の副詞と名詞の区別は難しい。なぜなら、どちらも屈折せず語根のまま文中に現れうるためである。明らかに有生性が高い名詞(代名詞など)や目的語以外で無標示の語句は副詞、助詞のついているものは名詞として扱う。

表4 屈折形式（一部）と統語的機能

形式	資料中でのグロス	機能
-i	INF（終止・連用形）	文終止（非過去）、節連鎖、名詞
-i	SEQ（中止・中止過去形）	文終止（過去）、節連鎖
-n	ADN（連体形）	文終止、名詞修飾、名詞

表4に示したように、一つの形式が文終止の機能とその他の機能を担うため、これらの形式を見ただけではそこで文が終わっているか、あるいはその後に節が続くかが分からない。これを判断するには音調や休止、形態統語的環境などを総合的に観察する必要がある。本稿における文境界（i.e. 例文番号の区切り）は、(i) =tjo、=saja、=beε、=zja、=daa などのある程度まとまった節にのみ接続する助詞（いわゆる文末助詞）が現れている（e.g. (1)）、(ii) 述部の連体形が名詞として働かずかつ名詞修飾を行っていない（e.g. (8)）、(iii) 終止・連用形または中止・中止過去形で終わり、その後にある程度の長い休止があるか、下降のイントネーションが現れている（e.g. (12)）、(iv) 疑問の上昇イントネーションが現れている（e.g. (48)）、(v) 最後に現れる名詞句が述語として働いている（e.g. (13)）、などの項目を基準として総合的に判断した。

また、用言は語根と屈折形式の間に派生接辞を取りうる。派生接辞には、使役・受動などの態に関わるもの、進行・過去などのテンスやアスペクトに関わるもの、語根から別の品詞の語幹を派生するもの、否定・肯定などの極性に関わるものがある。

1.4. 資料の表記と構成

談話における休止、言いかけや共通語の使用等を示すために、いくつか慣例的でない表記を採用した。以下にそれらの表記を示す。

- [...] 3秒以上の休止
- [-] 言いかけ
- ??? 同定できない形態素
- <xxx> 共通語の使用

伊仙方言の資料を提示するという本稿の目的に照らして、明らかに共通語を使用していると思われる箇所は<>で括った。共通語化しているかどうかの判断は以下のような基準に拠った：(i) 動詞と形容詞は伊仙方言と共通語とで屈折・派生の形態法が異なるため、共通語の形態法を行っている箇所は共通語と判断した。(ii) 名詞は伊仙方言でも共通語でも屈折しないため、形態法からは共通語化しているかどうかの判断はできない。用言の形態法が明らかに共通語のものである箇所で共通語形の名詞が出てきた場合のみ共通語化していると判断した。(iii) 共通語にのみ存在する機能形態素（多くの場合、格助詞）は共通語であると判断した。(iv) 伊仙方言と共通語は同じ日琉語族に属することから同形の同根語が多いので、単に共通語に存在する語形だという理由だけでは共通語形だと判断しなかった。通時的な音変化により、日琉祖語の/*e、*i/は伊仙方言の/i/または/i/に、/*o、*u/は伊仙方言の/u/にほとんど合流しているため、/e、o/の現れる語は多くの場合借用語であると判断される⁷。しかし、その借用

⁷ too (<*tau <*taku <*tako)「蛸」のように、方言内部で二次的に生じたと考えられる/e、o/も存在するため、/e、o/の存在が即座に借用を意味するものではない。

時期・経路はほとんどの場合不明であり、現代共通語へコードスイッチしているとは言い切れないことから、/e, o/が出現するからという理由だけでは共通語形だと判断しなかった。

伊仙方言のカナ転写には狩俣（2021）が提案し加藤（2021）が修正した、琉球諸語汎用のカナ表記を用いた。巻末の付録（p. 409）にカナ表記と音韻表記の対応表を示した。インターリニアグロスが始まる前の行には §2.1 と同様の音韻表記を示し、その後にインターリニアグロスを示し、インターリニアグロスの終わった次の行に §2.3 と同様の日本語訳を示した。最後の行にはその文の開始時間と終了時間を示した（h:m:s.ms）。形態素分析の段では基本的に全ての形態素を分割したが、意味の対応を分かりやすくするため、複合語と慣用表現は分析せずに 1 形態素としてグロスを振った。形態素とグロスはできる限り一対一対応するようにしたが、間投助詞には共通語の対応する形式をグロスとして振り、意味が文脈によって異なる場合には異なるグロスを振った。表 5 に複数のグロスが振られた形態素の一覧を示す。

表 5 複数のグロスが振られた形態素の一覧

形式	機能・分類	グロス 1	グロス 2
=ja	間投助詞	よ	ね
=jo	間投助詞	だよ	よ
=nee	間投助詞	ね	よね
=tjo	間投助詞	でしょう	だよ

2. テキスト

2.1. 音韻表記

- (1) *mukasi [...] monosugoka <jii> [...] atamano an wanrjokuno an samuraiga wutanbεε*
- (2) *usjattuja [...] ama kumanan warumonno wuntjika sugu uma izi warumono taizi si*
- (3) *ka kundu mata cigi mata uri sjun atika mata mukkonan warumonno wuntjikara mata uri taizi sija maati nihon zenkoku maati akkjuntjunu wutan*
- (4) *uriga mata daimeega oosjantjujo*
- (5) *un tjunu naaja amaterasuoomikamitji waki*
- (6) *uri uma hansjarikaratjo*
- (7) *usjattu [...] kunduja [...] mukasija [...] gunjaka huniga gunjakamungwanatija*

- (8) *gunjaka hunigwanaati ugwasi kikaija neeran*
- (9) *kaisi kuzidu akkijasaja*
- (10) *cikjaka tooja kaisi kugarjusiga*
- (11) *jamatukan watarjuntji naatikara kjoriga tuuwanmunnaati zenzen tairjokutekini ugattoo kugjuntjima saaransaja*
- (12) *munnaati kazi[-] cikjariti huu tatiti*
- (13) *hotatebuneja*
- (14) *si [...] kumakan jamatuka ikjunba jamatukara kantja kjunba hotatebune ugwasi ??? waki*
- (15) *usjattu arutokin kumananti warumon taizi tokunosimananti warumon taizi si*
- (16) *sidan too kagosimanan kumasotjunmunnu wariimunnu wuti*
- (17) *“un”tji itji usjattu too sika ugan ikkama simantji itji*
- (18) *unninja mutuja kuman unga kuman minatoga tokunosimananti saikoono minato jattanbeetjo*
- (19) *usjaatu kumananti huni nuri sjasiga*
- (20) *kazio tajorini akkjun huninaati*
- (21) *agan ikjunisika higasikaze nisika zenzen ikaransaja*
- (22) *kazimen oikazesidu iki jattuni*
- (23) *nisikazetoka tjotto minami nanseenokaze hokuseenokaze nisikara huu kassisi nanameni nattjuurijaa*

- (24) *si agannu ikarjunmunnaati*
- (25) *kaziga tjoodu kutjinkazinaati ikaranmunnaati kunduja kazematjitji kaziga kan narjunka uma hamanan matturanba siman*
- (26) *usjattu mukasija rjokwantjunmanen hoterumanen*
- (27) *janba tokubecu huttee jaatjunba nenmunnaati hamanan <sono> tumarijatanbeεja*
- (28) *ussika miokurininga teegee wutanbeεtjo*
- (29) *uman mii wutan*
- (30) *<kisio tatte>*
- (31) *kundu nakanaka kaziga tomariaragon si si tjoodu ugwasi sjundukin ninpuga utanbeεja*
- (32) *kwaan natjanbeεzja [...] umanan*
- (33) *usjattu kundu amaterasuomikamiga dattjija hama namiutjigiwa izi*
- (34) *jungwi utusija duugaja*
- (35) *ari utusjun ari uttusjun tami ari utuutji*
- (36) *“unnu unneesi tjikarazujoku tjikarazujoo ugwasi si ugwasi si unneesi hiruka kokoromutji rippana ningin naarijoo” tji itji*
- (37) *un namiutjigiwanu suna kassi kumatjaari*
- (38) *kan nami kassi siniwatasi kassi kubi miizjan*
- (39) *n[?]aa patjapatja simitaarisi*
- (40) *ugwasi kjurangwanu duu aroti sjan*

- (41) *ugwasi sjaatu kundu ugwasi sjuuti si*
- (42) *ussidu atu unga naatjan*
- (43) *tenkiga jutakunaati zuuttu un gunjaka hunigwa nuti kagosimaka izjan*
- (44) *usjattu [...] uri<o kinento>si kondoja hamauritjimun sjanbεεja*
- (45) *un*
- (46) *sjassi kundu hu azjun mikkwa mikkwatjuntjo*
- (47) *<atarasii ko>ja*
- (48) *mikkwanu [...] miibamakumasi <wakaru>?*
- (49) *<atarasii hama humasu>ne*
- (50) *miibamakumasitjun waki*
- (51) *urigaja ugwasi batjabatja simitjaarisjunmun*
- (52) *uritu hama[-] kunduja mm sanzjuusankaikinu huntonu saisjonu meimokuja un sankai[-] sanzjuusankaikinu senzonusa zenin mazin amananti ugamitjun imi jasiga*
- (53) *unnan kunduja un cuidenan kuri iritan iriti sjan*
- (54) *iriti sjan*
- (55) *usjattu ama nindaatu kunduja [...] mukooja zimotoonaati heitaiga huuwamunnaati [...] zenzen uritaani meeti kassi irikan watati tjanbεεja*
- (56) *juugata usjattu [...] un amaterasuomikamija jumi kassi si isintjizinan tatji jumi kassi tatiti kibarī kibarī kibaritji doo<to> sjanbεεja*
- (57) *kassi utji sjaatundaa*

- (58) *juminu huntuja isizukitjigadaara junmunjtji*
- (59) *ugwasi natan*
- (60) *ugwasi sjaatu kunduja [...] daakaragadaara hattunu tujii un jumin uwabenan tomatanbeεεja*
- (61) *un hatu n?jan kassi makkinisjun kjanljan hikarjun hatujatan*
- (62) *tidanu juuhija hora [...] juugatanu anmunjaja hikjarinu tjuuwasanee*
- (63) *uri ukiti baa<to> hikatanbeεεja kjuuni*
- (64) *usjattu kondoja mukoono kumasono heeja irika nikooti simitusaja*
- (65) *miika boon<to> hikariga sittji miinu mekkjaroku naati*
- (66) “mekkjaroku nari” *tjunja <mega kuramu>tjunkotoja*
- (67) *mekkjaroku naati*
- (68) *ugwasi [...] batabata uosaoosjun jee kunkara baa<to> kumanja amaterasuomikaminu kuminu sjumiti izi kumaso horobotjantji*
- (69) *ugwasi sjaatu [...] unga kumasono cugino kurainu mungaja “daa izi joonija daanan tumarjunkanee” tjaatu*
- (70) “ama” *tji itjantji*
- (71) *tjimeiga wakaranmunnaati “ama” tji uubi satjan*
- (72) *ugwasi sjaatu amaga ibusukitjun too*
- (73) *atukara <jubi sasu [...] jubio sasitatokorodakara ibusukini sijoo>tjun kutusi iicikitan*
- (74) *ibusukitji uma cikitanbeεεtji*
- (75) *owari*

2.2. カナ表記

- (1) ムカシ [...] モノスゴカ <'イイ> [...] アタマノ アン ワンリョク
ノ アン サムライガ 'ウタンブエ
- (2) ウシャットウヤ [...] アマ クマナン ワルモンノ 'ウンチカ スグ ウ
マ イジ ワルモノ タイジ シ
- (3) カ クンドウ マタ ツィギ マタ ウルィ シュン アティカ マタ
ムッコナン ワルモンノ 'ウンチカラ マタ ウルィ タイジ シヤ マア
ティ ニホン ゼンコク マアティ アッキュンチュヌ 'ウタン
- (4) ウルィガ マタ ダイメエガ オオシャンチュヨ
- (5) ウン チュヌ ナアヤ アマテラスオオミカミチ ワキィ°
- (6) ウルィ ウマ ハンシャリカラチヨ
- (7) ウシャットウ [...] クンドウヤ [...] ムカシヤ [...] グニャカ フニ
ガ グニャカムングァナティ° ヤ
- (8) グニャカ フニグァナアティ° ウグァシ キカイヤ ネエラン
- (9) カイシ クジドウ アッキヤサヤ
- (10) ツィキャカ トオヤ カイシ クガリュスィガ
- (11) ヤマトウカン ワタリユンチ ナアティカラ キヨリガ トウワンムンナ
アティ° ゼンゼン タイリョクテキニ ウガットオ クギュンチマ サア
ランサヤ
- (12) ムンナティ° カズィ [-] ツィキャルィティ フウ タティ° ティ
- (13) ホタテブネヤ
- (14) シ [...] クマカン ヤマトウカ イキュンバ ヤマトウカラ カンチャ
キュンバ ホタテブネ ウグァシ ??? ワキィ°

- (15) ウシャットゥ アルトキン クマナンティ° ワルモン タイジ トクノシ
マナンティ° ワルモン タイジ シ
- (16) スィダン トオ カゴシマナン クマソチュンムンヌ ワリイムンヌ 'ウ
ティ
- (17) 「ウン」チ イチ ウシャットゥ トオ シカ ウガン イッカマ スィマン
チ イチ
- (18) ウンニンヤ ムトゥヤ クマン ウンガ クマン ミナトガ トクノシマナ
ンティ° サイコオノ ミナト ヤツタンブエエチヨ
- (19) ウシャアトゥ クマナンティ° フヌイ スリ シャスィガ
- (20) カズィオ タヨリニ アッキュン フヌィナアティ°
- (21) アガン イキュニシカ ヒガシカゼ ニシカ ゼンゼン イカランサヤ
- (22) カズィネン オイカゼシドゥ イキ ヤットゥニ
- (23) ニシカゼトカ チョット ミナミ ナンセエノカゼ ホクセエノカゼ ニシ
カラ フウ カッシシ ナナメニ ナッチュウリヤア
- (24) シ アガンヌ イカリユンムンナアティ°
- (25) カズィガ チョオドゥ クチンカズィナアティ° イカランムンナアティ°
クンドゥヤ カゼマチチ カズィガ カン ナリユンカ ウマ ハマナン
マットゥランバ スィマン
- (26) ウシャットゥ ムカシヤ リョクァンチュンマネン ホテルマネン
- (27) ヤンバ トクベツ フッテエ ヤアチュンバ ネンムンナアティ° ハマナ
ン <ソノ> トゥマリヤタンブエエヤ
- (28) ウッシカ ミオクリニンガ テエゲエ 'ウタンブエエチヨ
- (29) ウマン ミイ 'ウタン

- (30) <キシオ タツテ>
- (31) クンドゥ ナカナカ カズィガ トマリアランゴン シ シ チョオドゥ
ウグァシ シュンドゥキン ニンプガ ウタンブエェヤ
- (32) クァァ ナチャンブエェジャ [...] ウマナン
- (33) ウシャットゥ クンドゥ アマテラスオオミカミガ ダッチヤ ハマ ナミ
ウチギワ イジ
- (34) ユングィ ウトウシヤ ドゥウガヤ
- (35) アルィ ウトウシュン アルィ ウットウシュン タムィ アルィ ウトウ
ウチ
- (36) 「ウンヌ ウンネエシ チカラズヨク チカラズヨオ ウグァシ シ ウグァ
シ シ ウンネエシ ヒルカ ココロムチ リッパナ ニンギン ナアルィ
ヨオ」チ イチ
- (37) ウン ナミウチギワヌ スナ カッシ クマチャアリ
- (38) カン ナミ カッシ スィヌィワタシ カッシ クブィ ミイジャン
- (39) ?ナア パチャパチャ シムィタアリシ
- (40) ウグァシ キュラングァヌ ドゥウ アロティ° シャン
- (41) ウグァシ シャアトゥ クンドゥ ウグァシ シュウティ シ
- (42) ウッシドゥ アトゥ ウンガ ナアチャン
- (43) テンキガ ユタクナアティ ズウットゥ ウン グニャカ フニグァ ヌ
ティ カゴシマカ イジャン
- (44) ウシャットゥ [...] ウルィ<オ キネント>シ コンドヤ ハマウリチムン
シャンブエェヤ

- (45) ウン
- (46) シャッシ クンドゥ フ アジュン ミックァ ミックァチュンチョ
- (47) <アタラシイ コ>ヤ
- (48) ミックァヌ [...] ミイバマクマシ <ワカル>?
- (49) <アタラシイ ハマ フマス>ネ
- (50) ミイバマクマシチュン ワキィ°
- (51) ウルィガヤ ウグァシ バチャバチャ シムィチャアリシユンムン
- (52) ウルィトゥ ハマ [-] クンドゥヤ ンー サンジュウサンカイキヌ フント
ヌ サイショヌ メイモクヤ ウン サンカイ [-] サンジュウサンカイキヌ
センゾヌヤ ゼンイン マジン アマナンティ° ウガミチュン イミ
ヤスイガ
- (53) ウンナン クンドゥヤ ウン ツイデナン クルィ イルィタン イルィ
ティ シャン
- (54) イルィティ シャン
- (55) ウシャットゥ アマ ヌインダアトゥ クンドゥヤ [...] ムコオヤ ジモ
トナアティ° ヘイタイガ フウワムンナアティ° [...] ゼンゼン ウ
ルィタアニ ムエエティ° カッシ イリカン ワタティ チャンブエエヤ
- (56) ユウガタ ウシャットゥ [...] ウン アマテラスオオミカミヤ ユミ
カッシ シ イシンチジナン タチ ユミ カッシ タティ° ティ キバ
ルィ キバルィ キバルィチ ドオ<ト> シャンブエエヤ
- (57) カッシ ウチ シャアトゥンダア
- (58) ユミヌ フントゥヤ イシズキチガダアラ ユンムンチ
- (59) ウグァシ ナタン

- (60) ウグァシ シャアトゥ クンドゥヤ [...] ダアカラガダアラ ハットゥヌ
トゥディ チイ ウン ユミン ウワベナン トマタンブエエヤ
- (61) ウン ハトゥ ?ニャン カッシ マッキニシュン キャンキャン ヒカ
リュン ハトゥヤタン
- (62) ティダヌ ユウヒヤ ホラ [...] ユウガタヌ アンムンヤヤ ヒキャリヌ
チュウワサネエ
- (63) ウルイ ウキィ° ティ バア<ト> ヒカタンブエエヤ キュウニ
- (64) ウシャットゥ コンドヤ ムコオノ クマソノ ヘエヤ イリカ ニコオ
ティ シミトゥサヤ
- (65) ムィィカ ボオン<ト> ヒカリガ シッチ ムィィヌ ムエツキャロク ナ
アティ
- (66) 「ムエツキャロク ナリ」チュンヤ <メガ クラム>チュンコトヤ
- (67) ムエツキャロク ナアティ
- (68) ウグァシ [...] バタバタ ウオオサオオシュン イェエ クンカラ バア<
ト> クマンヤ アマテラスオオミカミヌ クミヌ シュムィティ イジ ク
マソ ホロボチャンチ
- (69) ウグァシ シャアトゥ [...] ウンガ クマソノ ツギノ クライヌ ムン
ガヤ 「ダア イジ ヨオヌィヤ ダアナン トゥマリユンカネエ」チャア
トゥ
- (70) 「アマ」チ イチャンチ
- (71) チメイガ ワカランムンナアティ° 「アマ」チ ウウブィ サチャン
- (72) ウグァシ シャアトゥ アマガ イブスキチュン トオ
- (73) アトゥカラ <ユビ サス [...] ユビオ サシタコロダカラ イブスキニ
シヨオ>チュン クトゥシ イイツィキィ° タン
- (74) イブスキチ ウマ ツィキィ° タンブエエチ
- (75) オワリ

2.3. 日本語訳

- (1) 昔 [...] ものすごくいい [...] 頭のある、腕力のある侍がいたらしい
- (2) そしたらね [...] あちらこちらで悪者がいるといたら、すぐそこへ行って悪者退治して
- (3) そしたら、今度、また、次、また、こういうことをしていると（いう知らせが）あればまた向こうへ、悪者がいると言えはまたそれを退治してね、周って、日本全国周って歩いている人がいた
- (4) それがまた、題名（i.e. 呼び名）が変な人だよ
- (5) その人の名前は天照大御神というわけ
- (6) それ、そこ、祖母からでしょう
- (7) そして [...] 今度は [...] 昔は [...] 小さい船が、小さいものだから
- (8) 小さい船だからね、そう、機械はない
- (9) 櫂で漕いでこそ進んでいたよ（i.e. 櫂で漕がなれば進めなかったよ）
- (10) 短い所は櫂で漕げるけど
- (11) ヤマト（i.e. 日本の本土）へ渡るとなってから距離が遠いものだから全然体力的にそのようなところへ漕ぐというのはできないよね
- (12) だから風 [-]（漕ぐのに）疲れて、帆を立てて
- (13) 帆立船ね
- (14) で [...] ここからヤマトへ行くにしてもヤマトからこっちへ来るにしても帆立船をそのように???しているわけ
- (15) そしてある時にここに悪者退治、徳之島に悪者退治しに（天照大神が来た）

- (16) (徳之島での悪者退治が) 済んだ所で、鹿児島に熊襲という悪者がいて
- (17) 「うん」と (i.e. その話を聞いたので、悪者退治を引き受けると) 言って、それならそっちへ行かないといけないと言って
- (18) そこには、元はここ (i.e. 東浜集落) の海が、この港が徳之島では最高の港だったらしいんだけど
- (19) そうするとここで船乗りしたんだけど
- (20) 風を頼りに進む船だから
- (21) そっち (i.e. 徳之島から北東にある鹿児島本土) へ行くとしたら、東風だったら全然いけないよね
- (22) 風によって、追い風でこそ行く、やっつで
- (23) 西風とかちょっと南、南西の風、北西の風、西から (吹く風を受けて) 帆をこのようにして、斜めになっているでしょ
- (24) で、むこうが行けるもんで (行けないもんで)
- (25) 風がちょうど東風になって行けないものだから、今度は風を待つと言って、風がこっちへなっていると (i.e. 向かい風になっていると) その浜で待たないといけない
- (26) そして、昔は旅館というのもホテルも無い
- (27) 家も特別大きい家というのも無いものだから、浜に、その、泊まりだったらしい
- (28) そしたら、見送り人がたくさんいたらしいんだよ
- (29) そこにたくさん (見送り人が) いた
- (30) 岸を発って

- (31) 今度は中々風が止まろうとしないようで、ちょうどそうしている時に妊婦がいたんだってよ
- (32) 子を産んだらしいのよ [...] そこで
- (33) そして今度、天照大神が（その赤ん坊を）抱いてね、浜の波打ち際に行って
- (34) 汚れ落としは自分（i.e. 天照大神）がね（行った）
- (35) あれ（i.e. 汚れ）を落とす、あれを落とすために、あれを落として（i.e. 赤ん坊の胴についた汚れを落とすために浜の海水で洗った）
- (36) 「海の、海のように力強く、力強く、こう、こう、海のように広い心を持って立派な人間になれよ」と言って
- (37) その波打ち際の砂をこうして踏ませたり
- (38) こっちへ（打ち寄せる）波をこうして足の裏でこうして（踏ませて）、足首を掴んだ
- (39) 今、パチャパチャさせたりして
- (40) そのようにしてきれいな子供の胴を洗って、（そのように）した
- (41) そのようにして今度は、そのようにして、で
- (42) そのようにした後翌日になった
- (43) 天気がよくなってずっとその小さい船っこに乗って鹿児島へいった
- (44) そして、それを記念とし、今度はハマウリ（i.e. 浜下り）というものをしたらしいよ
- (45) うん
- (46) そして、今度帆を上げている新しい子（i.e. 新生児）をミックァという

- (47) (共通語で言えば) 新しい子ね
- (48) 新生児のミーバマクマシ、分かる?
- (49) 新しい浜を踏ます (という意味) ね
- (50) ミーバマクマシというわけ
- (51) それがね、こうしてバチャバチャさせたりするもの
- (52) それと、浜 [-]、今度は、んー、三十三回忌の本当の、最初の名目は、その、さんかい [-]、三十三回忌の、先祖のね、全員そこで先祖を拝むという意味だけど (i.e. 三十三回忌という行事の最初の目的は、浜に親戚一同が集まり先祖の霊を拝むというものであったが)
- (53) それに今度は、その、ついでにこれ (i.e. ミーバマクマシ) を入れた
- (54) 入れてした (i.e. 三十三回忌の行事とミーバマクマシを一緒に行うようになった)
- (55) そして、そこで寝て、今度は向こう (i.e. 熊襲) は (鹿児島が) 地元だから兵隊が多くて (勢力が強いので、天照大神は) 彼らに負けてこうして西に向かって渡って来たらしい
- (56) 夕方、そうして、その天照大神は弓をこうして (i.e. 縦に持って) 石の上に立って、弓をこうして立てて「頑張れ頑張れ頑張れ」といってドーッとした (i.e. 弓を石に打ち付けながら兵を激励した) らしいよ
- (57) こうして打って (激励を) していたよ
- (58) 弓の本当は石づきとか何とかいうものだと (i.e. 弓を石に打ち付けた部分の正式名称は石突きとかいうものだ)
- (59) そんな風になった
- (60) そのようにしたら今度は [...] どこからだろうか、鳩が飛んで来てその弓の上辺に止まったらしいんだよ

- (61) その鳩は少し、このように真っ黄に光る鳩だった
- (62) 太陽の夕日はほら [...] 夕方のあれはね、光が強いよね
- (63) それを受けて（鳩が）バーッと光ったらしいよ、急に
- (64) そしたら今度は向こうの熊襲の兵は西に向かって攻めていたんだよ
- (65) 目にボーンと光が来て目が眩しくなって
- (66) 「ムエッキヤロクナリ」というのは目がくらむということね
- (67) 目が眩んで
- (68) そのように [...] バタバタ右往左往する間こっちからバーっとここに天照大神の組が攻めて行って熊襲を滅ぼしたと
- (69) そのようにすると [...] その人が、熊襲の次の位の者がね「どこに行って今夜はどこに泊まろうかね」と言ったら
- (70) （天照大神が）「あそこ」と言ったと
- (71) 地名が分からないものだから「あそこ」と言って指差した
- (72) そして、あそこが指宿と言う所だ
- (73) 後から指差す、指を指したところだから指宿にしようということで（天照大神はそのような名前にしようと言いつけた
- (74) 指宿とそこにつけたらしいと
- (75) 終わり

2.4. インターリニアグロス

- (1) mukasi [...] monosugoka <jii> [...] atamano an wanrjokuno an samuraiga wutanbεε

mukasi monosugo-ka <jii> atama=no ar-n wanrjoku=no ar-n
昔 ものすごい-ADJVZ 良い 頭=NOM ある-ADN 腕力=NOM ある-ADN

samurai=ga wur-tar-n=bεε
侍=NOM いる-PST-ADN=HSY

‘昔 [...] ものすごい [...] 頭のある、腕力のある侍がいたらしい’

(0:00:00.160 – 0:00:13.950)

- (2) usjattuja [...] ama kumanan warumonno wuntjika sugu uma izi warumono taizi si

usjattu⁸=ja ama kuma=nan warumon=no wur-n=tji=ka sugu uma
そうすると=ね あそこ ここ=LOC 悪者=NOM いる-ADN=QUOT=COND すぐ そこ

ik-i warumon<=o> taizi s-i
行く-SEQ 悪者=ACC 退治する-SEQ

‘そしたらね [...] あちらこちらで悪者がいるといたら、すぐそこへ行って悪者退治して’

(0:00:14.715 – 0:00:24.100)

- (3) ka kundu mata cigi mata uri sjun atika mata mukkonan warumonno wuntjikara mata uri taizi sija maati nihon zenkoku maati akkjuntjunu wutan

ka kundu mata cigi mata uri s-jur-n ar-i=ka mata mukko=nan
COND 今度 また 次 また それする-NPST-ADN ある-SEQ=COND また むこう=LOC

warumon=no wur-n=tji=kara mata uri taizi s-i=ja maar-i nihon
悪者=NOM いる-ADN=QUOT=ABL また それ 退治する-SEQ=ね まわる-SEQ 日本

zenkoku maar-i akk-jur-n tju=nu wur-tar-n
全国 まわる-SEQ 歩く-NPST-ADN 人=NOM いる-PST-ADN

‘そしたら、今度、また、次、また、こういうことをしていると（いう知らせが）あればまた向こうへ、悪者がいると言えどもそれを退治してね、周って、日本全国周って歩いている人がいた’

(0:00:25.062 – 0:00:35.700)

⁸ 語彙的資源は *u s -tar -atu* (中称する-PST-ANT) と思われるが、音の縮約・意味の漂白・脱範疇化などが起きており、一般に文法化していると判断される性質を見せているため、本稿では一つの形態素として分析した。この他、同様の分析を *ugasjun, usjaatu, ugwasi, ussi* にも適用した。

- (4) *uriga mata daimeega oosjantjujo*
uri=ga mata daimee=ga oosja-har-n tju=jo
 それ=NOM また 題名=NOM 変わった-VBLZ-ADN 人=だよ
 ‘それがまた、題名 (i.e. 呼び名) が変な人だよ’
 (0:00:36.484 – 0:00:38.886)
- (5) *un tjunu naaja amaterasuumikamitji waki*
un tju=nu naa=ja amaterasuumikami=tji waki
 その人=NOM 名前=TOP 天照大神=QUOT わけ
 ‘その人の名前は天照大御神というわけ’
 (0:00:39.280 – 0:00:42.150)
- (6) *uri uma hansjarikatjo*
uri uma hansjari=kara=tjo
 それそこ 祖母=ABL=だよ
 ‘それ、そこ、祖母からでしょう⁹’
 (0:00:42.277 – 0:00:44.046)
- (7) *usjattu [...] kunduja [...] mukasija [...] gunjaka huniga gunjakamungwanatija*
usjattu kundu=ja mukasi=ja gunja-ka huni=ga gunja-ka
 そうすると 今度=TOP 昔=TOP 小さい-ADJVZ 船=NOM 小さい-ADJVZ

mun-gwa=naati=ja
 もの-DIM=CSL=ね
 ‘そして [...] 今度は [...] 昔は [...] 小さい船が、小さいものだから’
 (0:00:44.969 – 0:00:56.289)
- (8) *gunjaka hunigwanaati ugwasi kikaija neeran*
gunja-ka huni-gwa=naati ugwasi kikai=ja neer-a-n¹⁰
 小さい-ADJVZ 船-DIM=CSL そのように 機械=TOP ない-NEG-ADN
 ‘小さい船だからね、そう、機械はない’
 (0:00:56.733 – 0:01:00.446)
- (9) *kaisi kuzidu akkijasaja*
kai=si kug-i=du akk-i=ja=saja
 權=INS 漕ぐ-SEQ=FOC 歩く-INF=ね=だよ
 ‘權で漕いでこそ進んでいたよ (i.e. 權で漕がなければ進めなかったよ)’
 (0:01:03.940 – 0:01:05.794)

⁹ この文の文脈中の位置づけは不明である。

¹⁰ 不在を表す動詞語根 *neer* に否定接尾辞が接続した場合、不在の否定「なくない」ではなく、不在「ない」を表す。

- (10) cikjaka tooja kaisi kugarjusiga
cikja-ka too=ja kai=si kug-ar-jur-siga
 短い-ADJVZ 所=TOP 權=INS 漕ぐ-POT-NPST-CNC
 ‘短い所は權で漕げるけど’
 (0:01:06.389 – 0:01:10.775)
- (11) jamatukan watarjuntji naatikara kjoriga tuuwanmunnaati zenzen tairjokutekini
 ugattoo kugjuntjima saaransaja
jamatu=kan watar-jur-n=tji nar-i=kara kjori=ga tuu-har-n mun=naati
 ヤマト=ALL 渡る-NPST-ADN=QUOT なる-SEQ=ABL 距離=NOM 遠い-VBLZ-ADN もの=CSL
zenzen tairjoku-teki=ni ugattoo kug-jur-n=tji=ma s-ar-a-n=saja
 全然 体力-的=DAT そっちへ 漕ぐ-NPST-ADN=QUOT=ADD する-POT-NEG-ADN=だよ
 ‘ヤマト (i.e. 日本の本土) へ渡るとなってから距離が遠いものだから全然大体力的にそのようなところへ漕ぐというのはできないよね’
 (0:01:11.801 – 0:01:19.632)
- (12) munnati kazi[-] cikjariti huu tatiti
mun=naati kazi cikjari-i huu tatir-i
 もの=CSL 風 疲れる-SEQ 帆 立てる-SEQ
 ‘だから風 [-] (漕ぐのに) 疲れて、帆を立てて’
 (0:01:19.764 – 0:01:23.555)
- (13) hotatebuneja
hotatebune=ja
 帆立船=ね
 ‘帆立船ね’
 (0:01:23.649 – 0:01:25.795)
- (14) si [...] kumakan jamatuka ikjunba jamatukara kantja kjunba hotatebune ugwasi ???
 waki
si kuma=kan jamatu=kaa ik-jur-n=ba jamatu=kara kantja
 でここ=ALL ヤマト=ABL 行く-NPST-ADN=ADD ヤマト=ABL こっちへ
k-jur-n=ba hotatebune ugwasi ???-tur-n waki
 来る-NPST-ADN=ADD 帆立船 そのように ???-PROG-ADN わけ
 ‘で [...] ここからヤマトへ行くにしてもヤマトからこっちへ来るにしても帆立船をそのように???しているわけ’
 (0:01:26.254 – 0:01:36.694)

- (15) *usjattu arutokin kumananti warumon taizi tokunosimananti warumon taizi si usjattu* <aru> *tuki=n kuma=nanti warumon taizi tokunosima=nanti warumon*
 そうするとある 時=DAT ここ=LOC 悪者 退治 徳之島=LOC 悪者
taizi s-i
 退治 する-SEQ
 ‘そしてある時にここに悪者退治、徳之島に悪者退治しに（天照大神が来た）’
 (0:01:36.994 – 0:01:42.598)
- (16) *sidan too kagosimanan kumasotjunmunnu wariimunnu wuti sim-tar-n too kagosima=nan kumaso=tji jiw-jur-n mun=nu warii*
 済む-PST-ADN 所 鹿児島=LOC 熊襲=QUOTE 言う-NPST-ADN もの=NOM 悪い
mun=nu wur-i
 もの=NOM いる-SEQ
 ‘（徳之島での悪者退治が）済んだ所で、鹿児島に熊襲という悪者がいて¹¹’
 (0:01:43.027 – 0:01:49.027)
- (17) “un”tji itji usjattu too sika ugan ikkama simantji itji
un=tji jiw-i usjattu too s-i=ka ugan ik-a-ma
 その=QUOTE 言う-SEQ そうすると 所 する-SEQ=COND そっちへ行く-NEG-NEG.COND
sim-a-n=tji jiw-i
 済む-NEG-ADN=QUOTE 言う-SEQ
 ‘「うん」と（i.e. その話を聞いたので、悪者退治を引き受けると）言って、それならそっちへ行かないといけないと言って’
 (0:01:49.441 – 0:01:54.774)
- (18) *unninja mutuja kuman unga kuman minatoga tokunosimananti saikoono minato jattanbeetjo*
un=nin=ja mutu=ja kuma=n un=ga kuma=n minato=ga tokunosima=nanti
 その=DAT=TOP 元=TOP ここ=NOM 海=NOM ここ=NOM 港=NOM 徳之島=LOC
saikoo=no minato jar-tar-n=bεε=tjo
 最高=NOM 港 COP-PST-ADN=HSY=SFP
 ‘そこには、元はここ（i.e. 東浜集落）の海が、この港が徳之島では最高の港だったらしいんだけど’
 (0:01:56.981 – 0:02:04.335)

¹¹ ここで話が大きく変わる。徳之島での悪者退治は既に終わり、次は本土で熊襲退治をする話になる。

- (19) usjaatu kumananti huni nuri sjasiga
usjaatu kuma=nanti huni nur-i s-tar-siga
 そうするとここ=LOC 船 乗る-INF する-PST-CNC
 ‘そうするとここで船乗りしたんだけど’
 (0:02:06.092 – 0:02:09.300)
- (20) kazio tajorini akkjun huninaati
kazi<=o> tajori=ni akk-jur-n huni=naati
 風=ACC 便り=DAT 歩く-NPST-ADN 船=CSL
 ‘風を頼りに進む船だから’
 (0:02:10.685 – 0:02:13.746)
- (21) agan ikjunisika higasikaze nisika zenzen ikaransaja
agan ik-jur-n=ni s-i=ka higasi kaze=ni s-i=ka zenzen
 そっちへ行く-NPST-ADN=DAT する-SEQ=COND 東 風=DAT する-SEQ=COND 全然
ik-ar-a-n=saja
 行く-POT-NEG-ADN=だよ
 ‘そっち (i.e. 徳之島から北東にある鹿児島本土) へ行くとしたら、東風だったら全然いけないよね’
 (0:02:14.200 – 0:02:17.715)
- (22) kazinen oikazesidu iki jattuni
kazi=nen oikaze=si=du ik-i jattu=ni
 風=DAT 追い風=INS=FOC 行く-INF やっと=DAT
 ‘風によって、追い風でこそ行く、やっとで’
 (0:02:18.310 – 0:02:21.730)
- (23) nisikazetoka tjotto minami nanseenokaze hokuseenokaze nisikara huu kassisi
 nanameni nattjuurijaa
<nisi kaze=toka tjotto minami nansee=no kaze hokusee=no kaze nisi=kara>¹²
 西 風=とか ちょっと南 南西=NOM 風 北西=NOM 風 西=ABL
huu kassi s-i naname=ni nar-tur-i=ja
 帆 こうする-SEQ 斜め=DAT なる-PROG-SEQ=でしょ
 ‘西風とかちょっと南、南西の風、北西の風、西から (吹く風を受けて) 帆をこのようにして、斜めになっているでしょ’
 (0:02:21.890 – 0:02:30.780)

¹² <>に入れた箇所は、*minami, nansee, hokusee* などの伝統方言形でない方位語彙が使われていることから共通語へスイッチしていると判断した。琉球諸語全般で *nisi* は「北」を意味するが (cf. 平山 1966: 291)、前述の理由から、ここでは方言形の *nisi* 「北」ではなく共通語からの借用の「西」であると判断した。

- (24) *si agannu ikarjunmunnaati*
si agan=nu ik-ar-jur-n¹³ mun=naati
 で そっちへ=NOM 行く-POT-NPST-ADN もの=CSL
 ‘で、むこうが行けるもんで（行けないもんで）’
 (0:02:30.931 – 0:02:34.255)
- (25) *kaziga tjoodu kutjinkazinaati ikaranmunnaati kunduja kazematjitji kaziga kan narjunka uma hamanan matturanba siman*
kazi=ga tjoodu kutji=n kazi=naati ik-ar-a-n mun=naati kundu=ja kaze
 風=NOM ちょうど 東風=NOM 風=CSL 行く-POT-NEG-ADN もの=CSL 今度=TOP 風
mat-i=tji kazi=ga kan nar-jur-n=ka uma hama=nan
 待つ-SEQ=QUOT 風=NOM こっちへ なる-NPST-ADN=COND そこ 浜=LOC
mat-tur-a-nba sim-a-n
 待つ-PROG-NEG-NEG.COND 済む-NEG-ADN
 ‘風がちょうど東風になって行けないものだから、今度は風を待つと言って、風がこっちへなっていると（i.e. 向かい風になっていると）そこの浜で待たないといけない’
 (0:02:34.464 – 0:02:44.329)
- (26) *usjattu mukasija rjokwantjunmanen hoterumanen*
usjattu mukasi=ja rjokwan=tji jiw-jur-n=nba neer-n <hoteru>=nba
 そうすると 昔=TOP 旅館=QUOT 言う-NPST-ADN=ADD ない-ADN ホテル=ADD
neer-n
 ない-ADN
 ‘そして、昔は旅館というのもホテルも無い’
 (0:02:45.918 – 0:02:49.631)
- (27) *janba tokubecu huttee jaatjunba nenmunnaati hamanan <sono> tumarijatanbεεja*
jaa=nba tokubecu huttee jaa=tji jiw-jur-n=nba neer-n mun=naati
 家=ADD 特別 大きい家=QUOT 言う-NPST-ADN=ADD ない-ADN もの=CSL
hama=nan <sono> tumar-i jar-tar-n=bεε=ja
 浜=LOC その とまる-INF COP-PST-ADN=HSY=よ
 ‘家も特別大きい家というのも無いものだから、浜に、その、泊まりだったらしい’
 (0:02:50.240 – 0:02:56.076)

¹³ この後天気のでいで停泊せざるを得なくなるという文脈を考えると、*ikarjun*「行ける」は *ikaran*「行けない」の誤りと思われる。

- (28) *ussika miokurininga teegee wutanbɛɛtjo*
ussika miokurinin=ga teegee wur-tar-n=bɛɛ=tjo
 そしたら 見送り人=NOM とても いる-PST-ADN=HSY=だよ
 ‘そしたら、見送り人がたくさんいたらしいんだよ’
 (0:02:56.198 – 0:02:58.485)
- (29) *uman mii wutan*
uma=n mii wur-tar-n
 そこ=DAT たくさん いる-PST-ADN
 ‘そこにたくさん（見送り人が）いた’
 (0:02:59.122 – 0:03:01.145)
- (30) <*kisio tatte*>
 <*kisio tatte*>
 岸を 発って
 ‘岸を発って’
 (0:03:01.229 – 0:03:02.586)
- (31) *kundu nakanaka kaziga tomariarongan si si tjoodu ugwasi sjundukin ninpuga utanbɛɛja*
kundu nakanaka kazi=ga tumar-i ar-a-n=gon s-i s-i
 今度 中々 風=NOM とまる-INF ある-NEG-ADN=ようだ する-SEQ する-SEQ
tjoodu ugwasi s-jur-n duki=n ninpu=ga wur-tar-n=bɛɛ=ja
 ちょうど そのように する-NPST-ADN 時=DAT 妊婦=NOM いる-PST-ADN=HSY=よ
 ‘今度は中々風が止まろうとしないようで、ちょうどそうしている時に妊婦がいたんだってよ’
 (0:03:02.815 – 0:03:09.815)
- (32) *kwa natjanbɛɛzja [...] umanan*
kwa nas-tar-n=bɛɛ=zja uma=nan
 子供 為す-PST-ADN=HSY=のだよ そこ=LOC
 ‘子を産んだらしいのよ [...] そこで’
 (0:03:10.214 – 0:03:13.153)
- (33) *usjattu kundu amaterasuomikamiga dattjija hama namiutjigiwa izi*
usjattu kundu amaterasuomikami=ga dak-i=ja hama namiutjigiwa ik-i
 そうすると 今度 天照大神=NOM 抱く-SEQ=ね 浜 波打ち際 行く-SEQ
 ‘そして今度、天照大神が（その赤ん坊を）抱いてね、浜の波打ち際に行って’
 (0:03:13.860 – 0:03:20.257)

- (34) *jungwi utusija duugaja*
jungwi utus-i=ja duu=ga=ja
 汚れ 落とす-INF=TOP REFL=NOM=TOP
 ‘汚れ落としは自分 (i.e. 天照大神) がね (行った)’
 (0:03:22.535 – 0:03:23.993)
- (35) *ari utusjun ari utusjun tami ari utuutji*
ari utus-jur-n ari utus-jur-n tami ari utus-i
 あれ 落とす-NPST-ADN あれ 落とす-NPST-ADN ため あれ 落とす-SEQ
 ‘あれ (i.e. 汚れ) を落とす、あれを落とすために、あれを落として (i.e. 赤ん坊の胴についた汚れを落とすために浜の海水で洗った)’
 (0:03:25.377 – 0:03:29.115)
- (36) “*unnu unneesi tjikarazujoku tjikarazujoo ugwasi si ugwasi si unneesi hiruka kokoromutji rippana ningin naarijoo*” *tji itji*
un=nu un=nee s-i tjikarazujo-ku tjikarazujo-ku ugwasi s-i
 海=NOM 海=のよう する-SEQ 力強い-ADVLZ 力強い-ADVLZ そのように する-SEQ
ugwasi s-i un=nee s-i hiru-ka kokoro mut-i rippa-na
 そのように する-SEQ 海=のよう する-SEQ 広い-ADJVZ 心 持つ-SEQ 立派-ADJVZ
ningin nar-i=jo=tji jiw-i
 人間 なる-IMP=よ=QUOT 言う-SEQ
 ‘「海の、海のように力強く、力強く、こう、こう、海のように広い心を持って立派な人間になれよ」と言って’
 (0:03:32.645 – 0:03:47.317)
- (37) *un namiutjigiwanu suna kassi kumatjaari*
un namiutjigiwa=nu suna kassi kum-as-taari
 その 波打ち際=NOM 砂 こう 踏む-CAUS-JUX
 ‘その波打ち際の砂をこうして踏ませたり’
 (0:03:47.532 – 0:03:50.411)
- (38) *kan nami kassi siniwatasi kassi kubi miizjan*
kan nami kassi siniwata=si kassi kubi miig-tar-n
 こっちへ 波 こう 足の裏=INS こう 首 掴む-PST-ADN
 ‘こっちへ (打ち寄せる) 波をこうして足の裏でこうして (踏ませて)、足首を掴んだ’
 (0:03:50.570 – 0:03:53.701)

- (39) *n[?]aa patjapatja simitaarisi*
n[?]aa patjapatja simir-taari s-i
 今 ONM; 液体 させる-JUX する-SEQ
 ‘今、パチャパチャさせたりして’
 (0:03:53.899 – 0:03:56.142)
- (40) *ugwasi kjurangwanu duu aroti sjan*
ugwasi kjura-har-n-gwa=nu duu arow-i s-tar-n
 そのように きれい-VBLZ-ADN-DIM=NOM REFL 洗う-SEQ する-PST-ADN
 ‘そのようにしてきれいな子供の胴を洗って、(そのように) した’
 (0:03:57.205 – 0:04:00.466)
- (41) *ugwasi sjaatu kundu ugwasi sjuuti si*
ugwasi s-tar-atu kundu ugwasi s-tur-i s-i
 そのように する-PST-ANT 今度 そのように する-PROG-SEQ する-SEQ
 ‘そのようにして今度は、そのようにして、で’
 (0:04:01.280 – 0:04:04.838)
- (42) *ussidu atu unga naatjan*
ussi=du atu unga nar-tar-n
 そうして=FOC 後 翌日 なる-PST-ADN
 ‘そのようにした後翌日になった’
 (0:04:05.145 – 0:04:06.460)
- (43) *tenkiga jutakunaati zuuttu un gunjaka hunigwa nuti kagosimaka izjan*
tenki=ga juta-ku nar-i zuutu un gunja-ka huni-gwa nur-i
 天気=NOM 良い-ADVZ なる-SEQ ずっと その小さい-ADJVZ 船-DIM 乗る-SEQ
kagosima-ka ik-tar-n
 鹿児島-ADJVZ 行く-PST-ADN
 ‘天気がよくなってずっとその小さい船っこに乗って鹿児島へいった’
 (0:04:06.497 – 0:04:11.804)
- (44) *usjattu [...] uri<o kinento>si kondoja hamauritjimun sjanbeεja*
usjattu uri<=o kinen=to> s-i kondo=ja hamauri=tji mun
 そうすると それ=ACC 記念=QUOT する-SEQ 今度=TOP ハマウリ=QUOT もの
s-tar-n=bεε=ja
 する-PST-ADN=HSY=よ
 ‘そして、それを記念とし、今度はハマウリ (i.e. 浜下り) というものをしたら
 しいよ’
 (0:04:12.383 – 0:04:21.063)

- (45) un
un
 うん
 ‘うん’
 (0:04:22.654 – 0:04:23.234)
- (46) sjassi kundu hu azjun mikkwa mikkwatjuntjo
sjassi kundu huu ag-tur-n mikkwa mikkwa=tji jiw-jur-n=tjo
 そして 今度 帆 上げる-PROG-ADN 新生児 新生児=QUOT 言う-NPST-ADN=でしょう
 ‘そして、今度帆を上げている新しい子 (i.e. 新生児) をミックワという’
 (0:04:23.653 – 0:04:28.106)
- (47) <atarasii ko>ja
 <atarasii ko>=ja
 新しい 子=ね
 ‘(共通語で言えば) 新しい子ね’
 (0:04:28.285 – 0:04:30.105)
- (48) mikkwanu [...] miibamakumasi <waku>?
mikkwa=nu miibamakumasi <waku>
 新生児=NOM ミーバマクマシ 分かる
 ‘新生児のミーバマクマシ、分かる?’
 (0:04:31.693 – 0:04:42.273)
- (49) <atarasii hama humasu>ne
 <atarasii hama humasu>=ne
 新しい 浜 踏ます=ね
 ‘新しい浜を踏ます (という意味) ね’
 (0:04:42.312 – 0:04:44.092)
- (50) miibamakumasitjun waki
miibamakumasi=tji jiw-jur-n waki
 ミーバマクマシ=QUOT 言う-NPST-ADN わけ
 ‘ミーバマクマシというわけ’
 (0:04:44.189 – 0:04:45.393)
- (51) urigaja ugwasi batjabatja simitjaarisjunmun
uri=ga=ja ugwasi batjabatja simir-taari s-jur-n mun
 それ=NOM=ね そのように ONM; 液体 させる-JUX する-NPST-ADN もの
 ‘それがね、こうしてバチャバチャさせたりするもの’
 (0:04:45.393 – 0:04:50.071)

- (52) *uritu hama[-] kunduja mm sanzjuusankaikinu huntonu saisjonu meimokuja un sankai[-] sanzjuusankaikinu senzonuja zenin mazin amananti ugamitjun imi jasiga*
uri=tu hama kundu=ja mm sanzjuusankaiki=nu hunto=nu saisjo=nu
 それ=COM 浜 [-] 今度=TOP INTERJ 三十三回忌=NOM 本当=NOM 最初=NOM
meimoku=ja un sankai sanzjuusankaiki=nu senzo=nu=ja zenin mazin
 名目=TOP その 三回 [-] 三十三回忌=NOM 先祖=NOM=ね 全員 一緒に
ama=nanti ugam-i=tji jiw-jur-n imi jar-siga
 あそこ=LOC 拝む-INF=QUOT 言う-NPST-ADN 意味 COP-CNC
 ‘それと、浜 [-]、今度は、んー、三十三回忌の本当の、最初の名目は、その、さんかい [-]、三十三回忌の、先祖のね、全員そこで先祖を拝むという意味だけど (i.e. 三十三回忌という行事の最初の目的は、浜に親戚一同が集まり先祖の霊を拝むというものであったが)’
 (0:04:54.470 – 0:05:13.354)
- (53) *unnan kunduja un cuidenan kuri iritan iriti sjan*
un=nan kundu=ja un cuide=nan kuri irir-tar-n irir-i s-tar-n
 その=LOC 今度=TOP その ついで=LOC これ 入れる-PST-ADN 入れる-SEQ する-PST-ADN
 ‘それに今度は、その、ついでにこれ (i.e. ミーバマクマシ) を入れた’
 (0:05:13.917 – 0:05:18.140)
- (54) *iriti sjan*
irir-i s-tar-n
 入れる-SEQ する-PST-ADN
 ‘入れてした (i.e. 三十三回忌の行事とミーバマクマシを一緒に行うようになった)’
 (0:05:18.200 – 0:05:19.630)
- (55) *usjattu ama nindaatu kunduja [...] mukooja zimotonaati heitaiga huuwamunnaati*
[...] zenzen uritaani meeti kassi irikan watati tjanbeεja
usjattu ama ninb-tar-atu kundu=ja mukoo=ja zimoto=naati heitai=ga
 そうすると あそこ 寝る-PST-ANT 今度=TOP むこう=TOP 地元=CSL 兵隊=NOM
huu-har-mun=naati zenzen uri-taa=ni mεεr-i kassi iri=kan watar-i
 多い-VBLZ-もの=CSL 全然 それ-PL=DAT 負ける-SEQ こう 西=ALL 渡る-SEQ
k-tar-n=bεε=ja
 来る-PST-ADN=HSY=よ
 ‘そして、そこで寝て、今度は向こう (i.e. 熊襲) は (鹿児島が) 地元だから兵隊が多くて (勢力が強いので、天照大神は) 彼らに負けてこうして西に向かって渡って来たらしい¹⁴’
 (0:05:20.133 – 0:05:35.095)

¹⁴ ここで大きく話の内容が変わり、天照大神が熊襲を撃退した話になる。

- (56) juugata usjattu [...] un amaterasuoomikamija jumi kassi si isintjizinan tatji jumi kassi tatiti kibari kibari kibaritji doo<to> sjanbeεja

juugata usjattu un amaterasuoomikami=ja jumi kassi s-i isi=n
 夕方 そうすると その 天照大神=TOP 弓 こう する-SEQ 石=NOM

tjizi=nan tat-i jumi kassi tatir-i kibar-i kibar-i kibar-i=tji
 頂=LOC 立つ-SEQ 弓 こう 立てる-SEQ 頑張る-IMP 頑張る-IMP 頑張る-IMP=QUOT

doo<=to> s-tar-n=bεε=ja
 ONM; 勢いがある=QUOT する-PST-ADN=HSY=よ

‘夕方、そうして、その天照大神は弓をこうして (i.e. 縦に持って) 石の上に立って、弓をこうして立てて「頑張れ頑張れ頑張れ」といってドーッとした (i.e. 弓を石に打ち付けながら兵を激励した) らしいよ’

(0:05:35.359 – 0:05:51.637)

- (57) kassi utji sjaatundaa

kassi ut-i s-tar-tur-n=daa
 こう 打つ-SEQ する-PST-PROG-ADN=よ

‘こうして打って (激励を) していたよ’

(0:05:51.962 – 0:05:53.121)

- (58) juminu huntuja isizukitjigadaara junmuntji

jumi=nu huntu=ja isizuki=tji=ga=daara jiw-jur-n mun=tji
 弓=NOM 本当=TOP 石突き=QUOT=Q=どうか 言う-NPST-ADN もの=QUOT

‘弓の本当は石づきとか何とかいうものだ (i.e. 弓を石に打ち付けた部分の正式名称は石突きとかいうものだ)’

(0:05:53.203 – 0:05:55.630)

- (59) ugwasi natan

ugwasi nar-tar-n
 そのようになる-PST-ADN

‘そんな風になった’

(0:05:56.287 – 0:05:57.229)

- (60) ugwasi sjaatu kunduja [...] daakaragadaara hattunu tudi tjii un jumin uwabenan tomatanbeεja

ugwasi s-tar-atu kundu=ja daa=kara=ga=daara hattu=nu tub-i
 そのように する-PST-ANT 今度=TOP どこ=ABL=NOM=どうか 鳩=NOM 飛ぶ-SEQ

k-i un jumi=n uwabe=nan tumar-tar-n=bεε=ja
 来る-SEQ その 弓=NOM 上辺=LOC とまる-PST-ADN=HSY=よ

‘そのようにしたら今度は [...] どこからだろうか、鳩が飛んで来てその弓の上辺に止まったらしいんだよ’

(0:05:57.785 – 0:06:06.125)

- (61) un hatu n²jan kassi makkinisjun kjankjan hikarjun hatujatan
un hatu n²jan kassi makki=ni s-jur-n kjankjan hikar-jur-n hatu
 その鳩 少し こう 真っ黄=DAT する-NPST-ADN ONM; 光 光る-NPST-ADN 鳩
jar-tar-n
 COP-PST-ADN
 ‘その鳩は少し、このように真っ黄に光る鳩だった’
 (0:06:06.840 – 0:06:11.727)
- (62) tidanu juuhija hora [...] juugatanu anmunjaja hikjarinu tjuuwasanee
tida=nu juuhi=ja hora juugata=nu an mun=ja=ja hikjari=nu
 太陽=NOM 夕日=TOP INTERJ 夕方=NOM あの もの=TOP=ね 光=NOM
tjuuwa-har-n=nee
 強い-VBLZ-ADN=よね
 ‘太陽の夕日はほら [...] 夕方のあれはね、光が強いよね’
 (0:06:11.874 – 0:06:18.130)
- (63) uri ukiti baa<to> hikatanbεεja kjuuni
uri ukir-i baa<=to> hikar-tar-n=bεε=ja kjuu=ni
 それ 受ける-SEQ ONM; 勢いがある=QUOT 光る-PST-ADN=HSY=ね 急=DAT
 ‘それを受けて (鳩が) パーッと光ったらしいよ、急に’
 (0:06:18.203 – 0:06:20.322)
- (64) usjattu kondoja mukoono kumasono heeja irika nikooti simitusaja
usjattu kondo=ja mukoo=no kumaso=no hee=ja iri=ka nikow-i
 そうすると 今度=TOP むこう=NOM 熊襲=NOM 兵=TOP 西=ALL 向かう-SEQ
simir-i-tur-n=saja
 攻める-SEQ-PROG-ADN=だよ
 ‘そしたら今度は向こうの熊襲の兵は西に向かって攻めていたんだよ’
 (0:06:20.467 – 0:06:25.510)
- (65) miika boon<to> hikariga sittji miinu mekkjaroku naati
mii=ka boon<=to> hikari=ga sik-i mi=nu mekkjaro-ku
 目=ALL ONM; 勢いがある=QUOT 光=NOM 勢いよく来る-SEQ 目=NOM 眩しい-ADVLZ
nar-i
 なる-SEQ
 ‘目にボーンと光が来て目が眩しくなって’
 (0:06:26.282 – 0:06:31.925)

- (66) “mekkjaroku nari” tjunja <mega kuramu>tjunkotoja
 mekkjaro-ku nar-i=tji jiw-jur-n=ja <me=ga kuramu>=tji jiw-jur-n
 眩しい-ADV LZ なる-INF=QUOT 言う-NPST-ADN=TOP 目=NOM 眩む=QUOT 言う-NPST-ADN
 koto=ja
 こと=ね
 ‘「ムエツキヤロクナリ」というのは目がくらむということね’
 (0:06:32.786 – 0:06:36.385)
- (67) mekkjaroku naati
 mekkjaro-ku nar-i
 眩しい-ADV LZ なる-INF
 ‘目が眩んで’
 (0:06:36.828 – 0:06:37.509)
- (68) ugwasi [...] batabata uoosaosjun jee kunkara baa<to> kumanja
 amaterasuoomikaminu kuminu sjumiti izi kumaso horobotjantji
 ugwasi batabata uoosaoo s-jur-n jee kun=kara
 そのように ONM; 慌ただしい 右往左往 する-NPST-ADN 間 こっち=ABL
 baa<=to> kuma=n=ja amaterasuoomikami=nu kumi=nu sjumir-i
 ONM; 勢いがある=QUOT ここ=DAT=TOP 天照大神=NOM 組=NOM 攻める-SEQ
 ik-i kumaso horobos-tar-n=tji
 行く-SEQ 熊襲 滅ぼす-PST-ADN=QUOT
 ‘そのように [...] バタバタ右往左往する間こっちらからパーっとここに天照大神
 の組が攻めて行って熊襲を滅ぼしたと’
 (0:06:38.464 – 0:06:49.906)
- (69) ugwasi sjaatu [...] unga kumasono cugino kurainu mungaja “daa izi joonija daanan
 tumarjunkanee” tjaatu
 ugwasi s-tar-atu un=ga kumaso=no cugi=no kurai=nu mun=ga=ja
 そのように する-PST-ANT その=NOM 熊襲=NOM¹⁵ 次=NOM 位=NOM もの=NOM=ね
 daa ik-i jooni=ja daa=nan tumar-jur-n=ka=nee=tji jiw-tar-atu
 どこ 行く-SEQ 夜=TOP どこ=LOC とまる-NPST-ADN=Q=ね=QUOT 言う-PST-ANT
 ‘そのようにすると [...] その人が、熊襲の次の位の者がね「どこに行って今夜
 はどこに泊まろうかね」と言ったら’
 (0:06:50.120 – 0:07:00.888)

¹⁵ この「熊襲」は「天照大神」の間違いで、天照大神の次に偉い者が「どこに泊まろうか」と切り出した。

(70) “ama” tji itjantji

ama=tji jiw-tar-n=tji
あそこ=QUOT 言う-PST-ADN=QUOT

‘(天照大神が)「あそこ」と言ったと’

(0:07:01.056 – 0:07:02.264)

(71) tjimeiga wakaranmunnaati “ama” tji uubi satjan

tjimei=ga wakar-a-n=mun=naati ama=tji uubi sas-tar-n
地名=NOM 分かる-NEG-ADN=もの=CSL あそこ=QUOT 指 指す-PST-ADN

‘地名が分からないものだから「あそこ」と言って指差した’

(0:07:05.339 – 0:07:08.315)

(72) ugwasi sjaatu amaga ibusukitjun too

ugwasi s-tar-atu ama=ga ibusuki=tji jiw-jur-n too
そのようにする-PST-ANT あそこ=NOM 指宿=QUOT 言う-NPST-ADN 所

‘そして、あそこが指宿と言う所だ’

(0:07:09.234 – 0:07:11.743)

(73) atukara <jubi sasu [...] jubio sasitatokorodakara ibusukini sijoo>tjun kutusi iicikitan

atu=kara <jubi sasu jubio sasitatokorodakara ibusukini sijoo>=tji jiw-jur-n
後=ABL 指 指す 指を 指した所だから 指宿に しよう=QUOT 言う-NPST-ADN

kutu=si iicikir-tar-n

こと=INS 言いつける-PST-ADN

‘後から指差す、指を指したところだから指宿にしようということで(天照大神はそのような名前にしよう)言いつけた’

(0:07:12.036 – 0:07:20.753)

(74) ibusukitji uma cikitanbeetji

ibusuki=tji uma cikir-tar-n=bεε=tji
指宿=QUOT そこつける-PST-ADN=HSY=QUOT

‘指宿とそこにつけたらしいと’

(0:07:20.803 – 0:07:23.289)

(75) owari

owar-i
終わる-INF

‘終わり’

(0:07:24.287 – 0:07:24.640)

略号と記号

<xxx>	共通語の使用	IMP	imperative (命令形)
???	同定できない形態素	INF	infinitive (終止・連用形)
[-]	言いかけ	INS	instrumental (具格)
[...]	休止	INTERJ	interjection (間投詞)
ABL	ablative (奪格)	JUX	juxtaposition (並列形)
ACC	accusative (対格)	LOC	locative (処格)
ADD	additive (累加)	NEG	negative (否定)
ADJVZ	adjectivizer (形容詞化)	NOM	nominative (主格)
ADN	adnominal (終止・連体形)	NPST	non-past (非過去・肯定)
ADVLZ	adverbializer (副詞化)	ONM	onomatopoeia (擬態語・擬音語)
ALL	allative (方向格)	PL	plural (複数)
ANT	anterior (進展)	POT	potential (可能)
CAUS	causative (使役)	PROG	progressive (進行)
CNC	concessive (逆接形)	PST	past (過去)
COM	comitative (共格)	Q	question (疑問)
COND	conditional (条件)	QUOT	quotative (引用)
COP	copula (繫辞)	REFL	reflexive (再帰)
CSL	causal (原因)	SEQ	sequential (中止・過去中止形)
DAT	dative (与格)	SFP	sentence final particle (文末助詞)
DIM	diminutive (指小辞)	TOP	topic (主題)
FOC	focus (焦点)	VBLZ	verbalizer (動詞化)
HSY	hearsay (伝聞)		

カナ・音韻表記対照表

カナ表記と音韻表記の対照を表6に示す。

表6 カナ・音韻表対照表

	a	i	u	e	o	i	ε		a	i	u	e	o
ア	ア a	イ i	ウ u	エ e	オ o	イ° i	エ ε						
カ	カ ka	キ ki	ク ku	ケ ke	コ ko	キイ° ki	ケエ kε	キャ	キャ kja		キュ kju		キョ kjo
クァ	クァ kwa	クィ kwi		クエ kwe				グァ	グァ gwa	グィ gwi		グエ gwe	
ガ	ガ ga	ギ gi	グ gu	ゲ ge	ゴ go	ギイ° gi	ゲエ gε	ギャ	ギャ gja		ギュ gju		ギョ gjo
サ	サ sa	シ si	ス su	セ se	ソ so	スイ° si	セエ sε	シャ	シャ sja		シュ sju		ショ sjo
ザ	ザ za	ジ zi	ズ zu	ゼ ze	ゾ zo	ズイ° zi	ゼエ zε	ジャ	ジャ zja		ジュ zju		ジョ zjo
タ	タ ta	ティ ti	トゥ tu	テ te	ト to	ティ° ti	テエ tε	チャ	チャ tja		チュ tju		チョ tjo
ダ	ダ da	ディ di	ドゥ du	デ de	ド do	ディ° di	デエ dε						
ツァ			ツ cu			ツイ° ci							
ナ	ナ na	ニ ni	ヌ nu	ネ ne	ノ no	ナイ° ni	ネエ nε	ニャ	ニャ nja		ニュ nju		ニョ njo
ハ	ハ ha	ヒ hi	フ hu	ヘ he	ホ ho	ヒイ° hi	ヘエ hε	ヒャ	ヒャ hja		ヒュ hju		ヒョ hjo
ファ	ファ hwa	フィ hwi		フエ hwe		フィ° hwi		ブァ	ブァ bwa	ブィ bwi			
バ	バ ba	ビ bi	ブ bu	ベ be	ボ bi	ブイ° bi	ブエ bε	ビャ	ビャ bjja		ビュ bjju		ビョ bjjo
パ	パ pa	ピ pi	プ pu	ペ pe	ポ po	プイ° pi	プエ pε	ピャ	ピャ pjja		ピュ pjju		ピョ pjjo
マ	マ ma	ミ mi	ム mu	メ me	モ mo	ムイ° mi	ムエ mε	ミャ	ミャ mjja		ミュ mjju		ミョ mjjo
ヤ	ヤ ja	イ ji	ユ ju	イエ je	ヨ jo								
ラ	ラ ra	リ ri	ル ru	レ re	ロ ro	ルイ° ri	レエ rε	リャ	リャ rja		リュ rju		リョ rjo
ワ	ワ wa		ウ wu			ウイ° wi	ウエ wε						
その他	ン n	ッ 子音を2つ続ける				?(声門化子音) ?							

声門化子音とは j^2uu 「魚」、 m^2aa 「馬」、 w^2aa 「豚」などの語頭に現れる、いわゆる「かたい方の音」(上村 1992: 15)である。

参考文献

- 平山 輝男. 1966. 『琉球方言の総合的研究』. 東京: 明治書院.
- 伊仙町地域文化遺産総合活性化実行委員会(編). 2015. 『伊仙町の文化遺産: 伊仙町における奄美遺産悉皆調査報告書』. 鹿児島: 伊仙町地域文化遺産総合活性化実行委員会. <http://doi.org/10.24484/sitereports.21504>.
- 狩俣 繁久. 2021. 「琉球諸語の発音と書き表し方(暫定版)」. 沖縄言語研究センター定例発表会(2021年1月9日)発表資料.

- 加藤 幹治. 2021. 「徳之島伊仙方言の形容詞と助詞」. 『シマジマのしまくとぅば2：危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究』. 沖縄：琉球大学島嶼地域科学研究所. pp.31-58.
- 中本 正智. 1984. 「南東方言の概説」. 『講座方言学 10 沖縄・奄美地方の方言』. 東京：国書刊行会. pp.1-79.
- Pellard, Thomas. 2015. “The linguistic archaeology of the Ryukyu Islands”. In Heinrich, Patrick, Shinsho Miyara and Michinori Shimoji (eds.) *Handbook of the Ryukyuan Languages: History, Structure, and Use*. Berlin/New York: Mouton de Gruyter. pp.13-37.
- 崎村 弘文. 1983. 「徳之島の方言-3-徳之島町亀津方言の実態」. 『鹿児島大学文科報告第1分冊哲学・倫理学・心理学・国文学・漢文学篇』 17. pp.1-19.
- 津波 高志. 2015. 「伊仙町における村落の空間構造」. 伊仙町地域文化遺産総合活性化実行委員会（編）『伊仙町の文化遺産：伊仙町における奄美遺産悉皆調査報告書』. 鹿児島：伊仙町地域文化遺産総合活性化実行委員会. pp.40-54. <http://doi.org/10.24484/sitereports.21504>.
- 上村 幸雄. 1992. 「琉球列島処方限における喉頭化をめぐる子音の音韻的対立の諸相」. 『琉球列島における音声の収集と研究Ⅰ：琉球列島班研究成果報告書. 文部省科学研究費重点領域研究「日本語音声」琉球列島班. pp.14-26.
- . 1997. 「琉球列島の言語0」総説」 亀井 孝・河野 六郎・千野 栄一（編）『日本列島の言語』. 東京：三省堂. pp. 311-354.